

平成 30 年度県立広島大学地域戦略協働プロジェクト
地域経済の基盤である中小企業等の人材不足への対応策に関する調査
活動報告

経営情報学部 中島 満大

1. 活動の目的

本プロジェクトは、廿日市市の中小企業・小規模事業者が抱える人材不足の課題に対し、本学の学生が有する就職活動への意識、志望する企業・職種の傾向、情報収集の方法などを精査することで、問題の構造を導出していくことを目指す。製材・木製品製造業、食品製造業などといった廿日市市の地域経済を支える中小企業は、将来、企業を担っていく優秀な人材の確保を目指している。他方、大学生は、3年生の頃から情報収集や説明会への参加、就職試験というスケジュールに沿って、自分のやりたいこと、大学で学んだ専門性との一致などの条件と照らし合わせながら、自らが志望する企業や業種を明確化していく。こうしたプロセスの中で、まず本学の学生がどの程度廿日市市の企業へ就職しているのか、あるいは就職を希望しているのかを明らかにしていく。

2. 予備調査

本プロジェクトは、県立広島大学生が、どの程度廿日市市の企業に就職しているのか、あるいは彼（女）らがどのくらい中小企業に就職しているのかを把握することから開始した。そのために県立広島大学キャリアセンターが収集しているデータの整理を行った。2018年8月6日、7日に学生と共に変数の作成や簡単な記述統計を算出した（写真1）。その結果、県大生が過去10年でほとんど廿日市市の企業に就職していないこと、加えて廿日市市の中小企業となると、さらにその数が少なくなることが明らかになった。

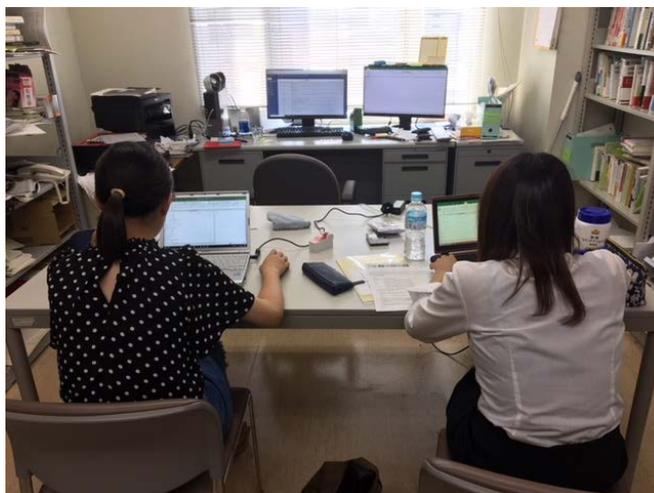


写真 2 学生によるデータ整理の様子

3. グループ・インタビュー

続いて県大生の具体的な就職活動の実態や、就職先に対する考え方をとらえるために、2018年12月4日に現時点で就職活動を終えている県立広島大学の4年生3名にインタビューを行った(写真2)。インタビューから、就職先を選ぶ際に中小企業であるかどうかはあまり気にしないということが語られた。具体的には彼(女)たちは、リクナビやマイナビといったサイトで検索する際にも企業規模でフィルターをかけていなかった。ただしリクナビやマイナビに掲載する企業側のコストを考えると、それらのサイトに掲載されていない(中小)企業は多いだろう。大学生が上記のサイトを中心として就職活動を行っているのであれば、サイトに掲載されていない(中小)企業は、彼(女)らの就職活動の選択肢として浮上する可能性は少ないと言える。ただし県大生の就職活動の傾向として、夏頃まではそうしたサイトをメインに自分自身で就職活動を行うが、9月以降になると、キャリアセンターで求人票の紹介などを受けることが多くなるようである。この時期からサイトに掲載されていない企業と学生の接点生まれやすくなっている。



写真2 学生への聞き取り調査の様子

もう一点、インタビューから探索的にではあるものの、浮かび上がってきたことは、学生が意図せずに中小企業を回避しているパターンである。県大生は中小企業を避けているわけではない。しかし、学生が強く固執している条件を探っていくと、結果として、中小企業を避けることになる。たとえば、企業の募集人数である。たとえば、学生は、募集人数が数名である場合、余程、本人が行きたい企業であったり、やりたい仕事であったりする以外は、その企業にエントリーしない。つまり、インタビューの中で意識的に中小企業を回避しているという言葉は学生から語られることはなかったけれど、中小企業に当てはまりやすい条件(募集人数が数名)に学生がこだわることで意図せずに中小企業が選択肢として排除されている可能性がある。

今後は、インタビューもしくは質問紙調査などの方法で、現時点での仮説を検証していく予定である。